

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 032

(2020/21年度 USDA 米国農務省 3月9日発表)

【ハイライト】① シカゴ穀物相場はBRAの収穫遅延や中国の大豆/コーンの大量買い付け予測等から昨年11月以降騰勢を強めその後一時小康状態になったが、3月に入り大豆は更に騰勢を強め\$14台半ば、コーン\$5台後半、小麦6台半ばと2012年以来の高値水準を維持している。② 先月触れた世界の穀物在庫率は別表需給表にある通り数量約8億ト/在庫率29.1%とFAOの安全在庫基準(コーン15%小麦25%等)を大きく上回り2012年当時(在庫率21%)と比べて供給不安は少ないが何故市場の騰勢は強く更に需給逼迫との見通しなのか?③ その構造的/潜在的要因は先月述べたが国際的問題としてはやはり「中国ファクター」のインパクトが大きい。つまりその生産量を上回る消費量の拡大=輸入数量増大という構図がより強まるという見方が市場を動かしている。④ 具体的には20/21世界の下記大豆含めた穀物生産量30.9億ト/消費量31.1億ト/貿易量6.4億ト、うち中国生産量5.6億ト/消費量7.2億ト⇒輸入量1.4億ト(+在庫取崩0.2)。この20年間の中国輸入量は、00年大豆8百万ト(他品目輸出入で差引ゼロ)。10年大豆57百万ト他品目ゼロ。この間、中国穀物消費/輸入増は世界的な需給のパイを膨らませている。⑤ 他方中国の在庫数量は膨大。下記の赤文字在庫数量+コメ在庫116百万ト=4.9億トは世界穀物在庫8.5億トの何とれ58%!中国の年間穀物生産量に近い。これは中国の「食糧安全保障」とも言わねるが、その膨大な在庫スペースは?保管コストは?品質確保は?等と多くなの?が付く。⑥ 中国は2000年代初頭食糧増産の結果在庫過剰の時期はあったが、この間の消費増はそれを十分に解消出来るはずだが数字上そうはない。そして中国はついに大豆輸入は1億トの大台、自給目標のコーン/小麦大量輸入にも踏み出す状況。結局のところ穀物在庫は取崩し等で目減りし需給逼迫しているのではないか?などこのUSDA在庫統計(出所?)には疑問が残る。⑦ 21/22年度の米国大豆作付意向調査を見ると前年比8.3%増の9千万acre。これは明らかに中国輸入拡大を見越し大豆相場の上昇を狙った綿花/小麦等からのシフトとみられ、今後とも「中国ファクター」は穀物市場の動向を左右する最大の要因と言える。

## 1、世界穀物需給の概要 (大豆除く)

- ① 生産量: 2,726 百万ト (前年比 2.0%増、前月比 0.4%増)
- ② 消費量: 2,739 百万ト (前年比 2.5%増、前月比 0.4%増)
- ③ 貿易量: 474 百万ト (前年比 7.0%増、前月比 1.0%増)

## 2、とうもろこし

- ① 生産量: 1,136 百万ト (前年比 1.8%増、前月比 0.2%増)
- ② 消費量: 1,152 百万ト (前年比 1.5%増、前月比 0.1%増)
- ③ 貿易量: 187 百万ト (前年比 8.7%増、前月比 0.5%増)
- ④ 概況: 米国は前月と変動なく前年 346 百万ト比+14 百万ト増の 360 百万ト、BRAも前年比+10 百万トの 109 百万トと前月から変更なく史上最高見通し。貿易量は中国の輸入拡大により 187 百万トと前年比 8.7%の大幅増。期末在庫は 287 百万ト、在庫率 25%、内**中国が 196 百万トと突出**。
- ⑤ 価格は \$ 5.62/Bu (前年 \$ 3.77/Bu、前月 \$ 5.49/Bu)と前月比¢13 上昇。

## 3、小麦

- ① 生産量: 777 百万ト (前年比 1.7%増、前月比 0.4%増)
- ② 消費量: 776 百万ト (前年比 3.9%増、前月比 0.9%増)
- ③ 貿易量: 198 百万ト (前年比 3.2%増、前月比 1.5%増)
- ④ 概況: 世界生産量は AUS が前月比+3 百万トの 33 百万トに拡大。全体数量も 777 百万トと史上最高見通し。消費量も中国の飼料増/IND の食糧増と全体で史上最高見通し。貿易量は 198 百万トと前年比 6 百万ト増加し堅調。期末在庫は 301 百万ト在庫率 38.9%。内**中国 150 百万トと 50%占有**。
- ⑤ 価格は \$ 6.54/Bu (前年 \$ 5.21/Bu、前月 \$ 6.41/Bu)と前月比¢13 上昇。

## 4、大豆

- ① 生産量: 362 百万ト (前年比 6.7%増、前月比 0.2%増)
- ② 消費量: 371 百万ト (前年比 4.1%増、前月比 0.4%増)
- ③ 貿易量: 170 百万ト (前年比 2.8%増、前月比 ±0)
- ④ 概況: 米国生産量は 113 百万トと不作の前年比 16 百万トの大幅増 (97 ⇒ 113)。BRA は前年比 9 百万ト (125 ⇒ 134) 増加。世界全体では前年 336 百万ト ⇒ 362 百万トと前年比 6.7%の大幅増産の見通し。中国輸入見通しは 1 億トの大台変わらず前年比+11 百万ト。世界貿易量も 170 百万トと前年比+2.8%。期末在庫 84 百万ト在庫率 22.6%。内**中国 30 百万ト**。
- ⑤ 価格は \$ 14.34/Bu (前年 \$ 8.83/Bu、前月 \$ 13.67/Bu) **前月比¢67 上昇**。以上

# 世界の穀物・大豆等の需給

2021年3月9日  
米農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2018/19	2,628	3,449	430	2,641	808		
	2019/20	2,673	3,482	443	2,671	810		
	2020/21	2月	2,716	3,526	469	2,728	799	
		3月	2,726	3,536	474	2,739	797	
小麦	2018/19	731	1,018	174	735	283		
	2019/20	764	1,047	192	747	300		
	2020/21	2月	773	1,074	195	769	304	
		3月	777	1,077	198	776	301	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2018/19	1,399	1,770	213	1,422	348		
	2019/20	1,412	1,760	208	1,428	332		
	2020/21	2月	1,439	1,770	228	1,454	316	
		3月	1,445	1,777	230	1,459	318	
大豆	2018/19	361	461	149	347	114		
	2019/20	339	453	165	357	96		
	2020/21	2月	361	456	170	370	86	
		3月	362	458	170	371	87	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	303.01	1,134.05	179.01	1,150.52	185.70	286.53
	3月	303.13	1,136.31	179.94	1,151.77	186.55	287.67
アメリカ	2月	48.76	360.25	0.64	305.45	66.04	38.15
	3月	48.76	360.25	0.64	305.45	66.04	38.15
アルゼンチン	2月	3.87	47.50	0.01	15.00	34.00	2.38
	3月	3.67	47.50	0.01	15.00	34.00	2.18
ブラジル	2月	4.79	109.00	1.50	70.00	39.00	6.29
	3月	4.79	109.00	1.50	70.00	39.00	6.29
EU	2月	7.18	63.60	15.50	77.00	2.20	7.08
	3月	7.18	63.70	15.50	77.00	2.20	7.18
日本	2月	1.39	0.00	15.60	15.65	0.00	1.34
	3月	1.39	0.00	15.60	15.65	0.00	1.34
中国	2月	200.53	260.67	24.00	289.00	0.02	196.18
	3月	200.53	260.67	24.00	289.00	0.02	196.18
ウクライナ、 ロシア	2月	2.31	43.50	0.06	17.10	27.10	1.66
	3月	2.31	43.37	0.06	17.00	27.10	1.63

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	94.85	361.08	166.96	369.84	169.69	83.36
	3月	96.04	361.82	166.90	371.31	169.72	83.74
アメリカ	2月	14.28	112.55	0.95	63.29	61.24	3.25
	3月	14.28	112.55	0.95	63.29	61.24	3.25
アルゼンチン	2月	26.70	48.00	4.50	46.20	7.00	26.00
	3月	26.70	47.50	4.70	47.40	7.00	24.50
ブラジル	2月	20.05	133.00	0.40	48.10	85.00	20.35
	3月	20.75	134.00	0.40	49.15	85.00	21.00
中国	2月	26.80	19.60	100.00	117.70	0.10	28.60
	3月	26.80	19.60	100.00	116.70	0.10	29.60
EU	2月	1.69	2.70	15.15	18.51	0.20	0.83
	3月	1.69	2.70	15.15	18.51	0.20	0.83

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	300.10	773.44	189.48	769.32	194.84	304.22
	3月	300.29	776.78	191.59	775.89	197.69	301.19
アメリカ	2月	27.99	49.69	3.27	31.38	26.81	22.76
	3月	27.99	49.69	3.27	31.38	26.81	22.76
アルゼンチン	2月	1.72	17.20	0.01	6.05	11.50	1.38
	3月	1.72	17.20	0.01	6.05	11.50	1.38
オーストラリア	2月	2.90	30.00	0.20	8.00	20.00	5.10
	3月	2.90	33.00	0.20	8.50	22.00	5.60
カナダ	2月	5.50	35.18	0.45	10.00	26.50	4.63
	3月	5.50	35.18	0.55	9.90	27.00	4.33
EU	2月	14.30	135.80	6.00	118.50	27.00	10.60
	3月	14.30	135.80	6.00	118.50	27.00	10.60
中国	2月	151.68	134.25	10.00	140.00	1.00	154.93
	3月	151.68	134.25	10.50	145.00	1.00	150.43
インド	2月	24.70	107.59	0.03	103.02	1.80	27.50
	3月	24.70	107.86	0.03	103.09	2.00	27.50
ロシア	2月	7.23	85.30	0.50	41.50	39.00	12.53
	3月	7.23	85.35	0.50	41.50	39.00	12.58
ウクライナ	2月	1.15	25.50	0.08	8.10	17.50	1.12
	3月	1.15	25.50	0.08	8.10	17.50	1.12

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

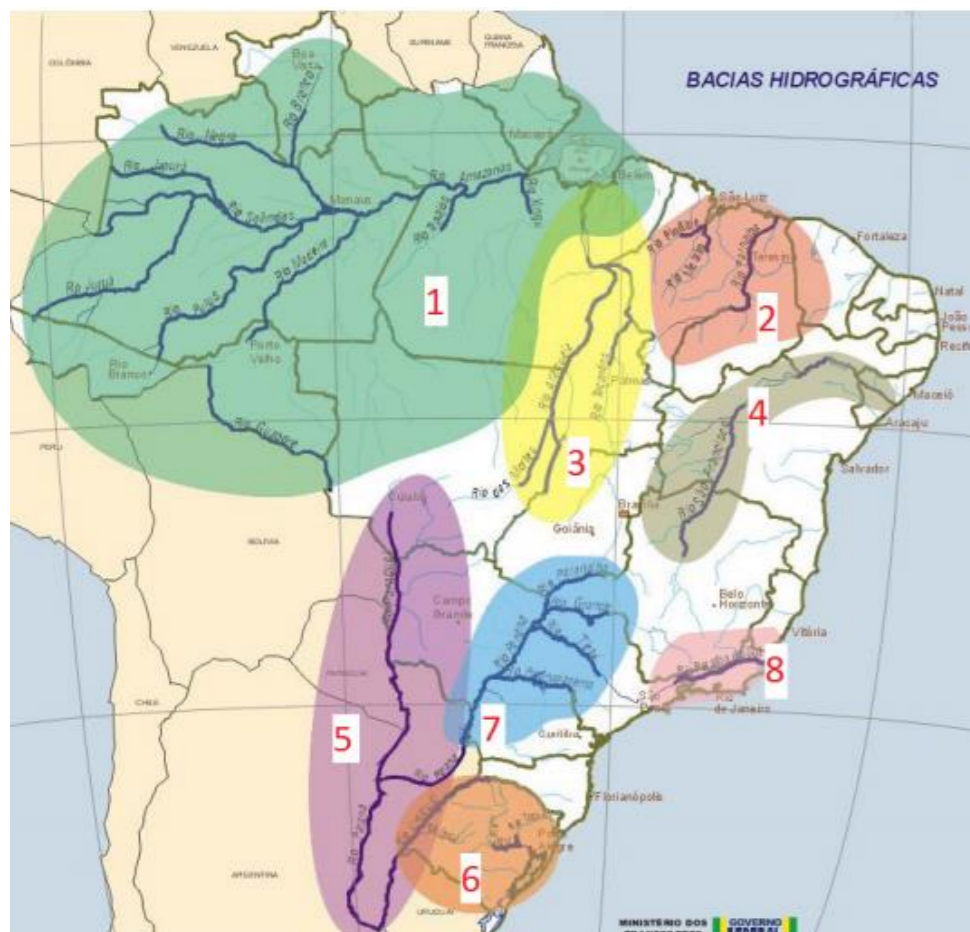
脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。



# 躍進する世界の穀物生産/輸出大国ブラジルの現状と課題(8)

- ① 今回は、今後のBRAの穀物生産/輸出競争力の動向を左右するアマゾン川を中心とした河川物流の現状と課題を整理したい。まず、その核となるアマゾン川の規模を世界の三大舟運河川(ミシシッピ川/長江)との比較で見ると次のようになる。統計上様々な数値があるが「理科年表」等で見るとその長さ/流域面積/毎秒平均流量は、  
 ●アマゾン⇒6,500km / 750万平方km / 209 千立方m ●Miss R⇒3,780km / 320万平方km / 18千立方m ●長江⇒6,300 km / 180万平方km / 21千立方mである。これで見ると長さはナイル川について世界2位だが、圧倒的な規模を示すのはMiss Rの2倍を超える広大な流域面積と同じく10倍超の膨大な流量である。(流域はCOL/PER/BOL等の一部を含む)
- ② アマゾンの流域面積は日本国土の約20倍、主要支流を含めた全体の長さは約5万kmと地球一周より長いが総降水量は流域年間降水量2,300mm×750万平方km(世界陸地面積の2.2%)=15兆トと世界降水量の14.1%を占める特異な存在である。この膨大な水量を飲み込む「アマゾネス湿原」は河口から1,600kmのマナウスで標高32m、3,500 kmのイキトス(ペルー)で標高100mとほぼ平坦に近く、マナウスまでの本流部分水深は50-60mとPMX級本船航行も可能である。米国Miss Rの場合は、PMX本船航行可能な40ft draftが確保されているのはSWPから230mile(370km)のBaton Rougeであるのを考えればアマゾンの壮大なスケールが認識出来るのではないだろうか。
- ③ さて、本題のBRA河川水系は「図1」に示したように全国8水系、その航行可能河川総延長43千km、うちネグロ川等13河川から成る最大のアマゾン水系(1)は約19千kmと全体の44%を占めている。この総延長43千kmのうち「表1」に示すとおり約50%の27千kmが商業的に利用され、その中でアマゾン水系は約18千kmと66%を占めBRA河川舟運の大宗を担っている。このアマゾン水系に連なる穀物輸出河川港はイタコチアラ港/サンタレン港/サンタナ港等。また、ベレン港に繋がるトカンチス水系(3)とイタキ港に繋がる北東部水系(2)も近年大豆/コーンの生産拡大著しい中西部マトグロッソ州や北東部MATOPIBAからの輸出ルートとして注目されている。
- ④ 若干統計的には古いがBRA内陸河川舟運を利用した輸送数量(2013)は8,030万ト、重量別には鉄鉱石/穀物69.1%(5,500万ト)、石油等液体バルク15.7%、コンテナ8.0%、その他7.3%となっており、穀物ではやはり大豆が中心となっている。直近は大豆/コーンの生産増大で舟運数量はもっと伸びていると想定。しかし現状は、下記の他国河川舟運に比べ大きな格差があり開発余地は大きい。●米国の沿岸含む内航水運輸送量(2015)は9.1億トのうち河川舟運5.7億ト、その中でMiss R本流部分(ミネアポリス～SWP 2,900km)は56%の3.2億ト、うちNOLA地区からの穀物積出量は約8千万ト。●長江は世界最大の河川輸送量26億トという記載はあるが詳細data分ならず。●ライン川(バーゼル～ロッテルダム1,200 km)3.3億トでEU内陸舟運の約70%を占める。(参考:日本内航海運貨物量(2018)3.54億ト)
- ⑤ 大河アマゾンの桁違いに広大な流域と膨大な水量は、その河川舟運拡大の可能性を秘めているが現状の河川船積施設の実態はまだ発展途上段階であり様々な課題を抱えている。BRAの港湾管理は、①公共港 ②民間ターミナル ③貨物積替施設等に5分類されているが公共港約100の内7割が河川港、民間ターミナル128の内29が河川ターミナルと分類されているが河川舟運の国内物流に占める比率はまだ7%程度と米国/EU等に比べ極めて低い。その要因は、①大河アマゾンの膨大な水量の為河川船積施設の安定的な建設/運営が困難。特に乾季/雨季の水位差は河口から540kmオビドスで5-6m、1,600kmマナウスで11m程度と大きくダム等人工的水量コントロールは不能。② BRA政府/州政府等の財政難のため河川施設の新設/補修/水路確保等が進まない。③ 民間河川ターミナルは排他性の高い私有施設であり他ユーザーの利用は限定的であると同時にサイロ規模/船積能力もまだ十分ではなく、多くは舢舨からの直接本船搬入或いは浮体式棧橋からの船積みを行っている。(写真参照)
- ⑥ 以上のような状況の中で、BRA政府は2000年以降の急激な穀物輸出拡大に歩調を合わせる様に2013年「港湾新法」によって港湾施設運営やインフラ整備に民間資本を積極的に活用する方針を定め、近年アマゾン河川港やそれに連なる北部港湾の開発が進んでいる。サンタレン港では当局による第二公共埠頭計画もあるが公共埠頭を民間(メガ社)が運営しCGLに加え新たにルイドレファス社が参入(2018)取扱数量を拡大している。北部港の内アマゾン水系のマナウス/イタコチアラ/サンタレン港やベレン/イタキ/サンルイス港からの大豆輸出数量(2019)は2015比ほぼ倍増の19百万トと南部サントス港17百万トを上回った。いずれにせよ、今後のBRAの穀物生産/輸出数量拡大の可能性は道路や河川舟運等の内陸物流や港湾インフラ整備にかかっていることは間違いない。(続く)

【図1】 ブラジルの主要河川水系



(出典: ブラジル運輸省 2014 年資料)

【表1】 河川水系別総延長

水系	総延長(km)
アマゾン水系 (1)	18,300
北東部水系 (2)	1,740
トカンチス水系 (3)	2,200
サンフランシスコ水系 (4)	1,400
パラグアイ水系 (5)	1,280
ウルグアイ水系 (6)	-
パラナ水系 (7)	1,900
南東部水系 (8)	600
合計	27,420

【上段写真】 アマゾン水系穀物積出港 / 【下段写真】 舢舨から本船への直接船積

